

けせん医報



目次

- 巻頭言 「今できること」
気仙医師会 副会長 えんどう消化器科内科クリニック
院長 遠 藤 稔 弥… 2
- 令和7年度定時総会…………… 3
- 理事会報告
■令和7年度第1回理事会報告…………… 4
■令和7年度第2回理事会報告…………… 5
- 随 想
「『3愛す』」を大切に 岩手県立大船渡病院
産婦人科 科長 千 田 英 之… 7
- 研修医日記
岩手県立大船渡病院 二年度研修医 矢 崎 啓… 8
- 特別寄稿【大船渡市大規模林野火災】
「私と山林火災」
大船渡市国民健康保険吉浜・綾里診療所
所長 佐々木 道 夫…………… 9
- 《各医療機関の活動状況について》
医療法人 天佑 うのうらクリニック 院長 鶴 浦 哲 朗…10
医療法人 医心会 鳥羽医院 院長 吉 澤 徹…11
ちば内科診療所 院長 千 葉 誠…13
- 事務局日記（けせん医報へのご投稿募集）……………16
- 編集後記……………18
- 表紙のこトバ……………18



第170号
2025. 8. 25

気仙医師会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目6-1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

言 頭 卷



「今できること」

気仙医師会 副会長

えんどう消化器科内科クリニック 院長

遠 藤 稔 弥

先の大船渡大規模林野火災の鎮火が宣言され3カ月が経ちました。被害は海沿いの地域まで及んだため東日本大震災で家を流された方もおり、その気持ちはかり知れません。被災された方々の一日も早い復興を願っております。医師会の活動については本号に掲載されますが、東日本大震災の状況とは異なっており、様々な災害に対応できるよう日頃からの準備が必要と感じました。

人生何が起こるか分かりません。ラテン語で「Carpe Diem」、英語で「Seize the Day」という言葉があります。今を生きるという意味です。

私くらいの年代の方はみな考え始めると思いますが、自分も確実に人生半ばを過ぎ、あとどれくらい元気に生きられるのか。若い頃は人生に終わりなど考えてみませんでした。将来病気や怪我で車が運転できなくなったり、介助なしには何もで出来なくなったりするかもしれません。もう少ししてから、引退しておちついたらやりたいことをしようと思っても手遅れになる可能性もあります。

自分には趣味と言えるようなものはありませんが、コロナ渦前に神社の御朱印集めを妻と二人で始めました。神社に行って拝むとなんとなく身が清められた感じになります。神社ごと様々なデザインがあり、御朱印帳を準備し、集めて数が増えると楽しくなりました。最初は近場の県内の神社から始め、ちょっとした旅行の際に、行先にある神社を回って集めていましたがコロナで中断していました。これを機に旅行を兼ねてまた再開し残された時間を楽しみ、大切にしたいと考えています。

開業して20年を過ぎました。時の経過とともに患者さんも年をとり、少しずつ関節の痛み、視力が衰え、もの忘れが進んでいく。そして見かけなくなる方もいます。自分も同じ道を歩んでいるような気がします。過去を悔やみ、未来の事を心配してもしょうがありません。今自分が出来ることを精一杯やればいいのかと思っています。

随 想

「『3愛す』を大切に」

岩手県立大船渡病院 産婦人科

科長 千 田 英 之

お世話になっております。令和6年7月より大船渡病院産婦人科に赴任しました。医師会の先生方には、患者様の紹介および逆紹介はもちろんのこと、常日頃よりさまざまな場面でお骨折りいただいておりますこと、御礼申し上げます。職責を果たせるよう邁進していく所存ですので、今後ともご指導たまわりますよう、よろしくお願いいたします。

出身は奥州市水沢で、平成20年に自治医科大学を卒業した後、県立宮古病院で6年間、西和賀町国民健康保険沢内病院および町立西和賀さわうち病院の新旧病院で1年間、岩手医大産婦人科で大学院生としての2年間を経て、平成29年4月から県立二戸病院で7年3か月を過ごし、岩手医大産婦人科の関連病院の人事に伴い令和6年7月より県立大船渡病院へ赴任しました。

さて、自治医科大学の1期生の卒業式では「仕事はもちろん、勤務する地域を、そして支えてくれる家族を愛するように」との言葉が贈られたと聞いております。この「3愛す」に沿って、最近の自分を振り返ってみたいと思います。

仕事を愛すについては、自分自身は産婦人科医としてはまだまだ未熟であり、不安は常に抱えています。その一方で、地域の病院で産婦人科医として勤務する上で期待されることの大部分は産科領域と思い、それに見合うような資格取得を優先してきた面はありました。大船渡病院へ赴任して感じたのは、産婦人科は前任の科長の先生がおっしゃっていた通り、若手の先生方がかなり頼りになるということです。大学院時代を除けば岩手県の東端・西端・北端での勤務を続けてきた自分としては、科長でも学ぶ姿勢があれば充実した日々を送れると勝手に信じて日々過ごしています。

地域を愛すについては、勤務する度に住民票を勤務地に移して過ごしてきましたが、大船渡には自宅を購入しました。大船渡で暮らしてまだ1年ですが、縁あって、今年度は海の星幼稚園の父母会長と大船渡北小学校のPTA副会長とを務めております。まだまだ至らぬ点ばかりですので、これからも地域に支え育てられながら成長していければと思います。

家庭を愛すについては、二戸からの異動にあたっては家族の理解にも支えられました。転校の経験がない自分としては戸惑いましたが、大船渡にみんなで行こうと言ったのは長女でした。大船渡に物件を探して人生3回目の住宅ローンを組んだり、二戸の自宅を売却したり、公私とも激動の毎日でした。幸い、家族も大船渡の生活に馴染みつつ、二戸の友人とも交流を続けており、徐々に落ち着いてきました。

まだまだ力不足の身ではありますが、「3愛す」を大切にしながら、気仙地域のために邁進していく所存ですので、よろしくお願いいたします。

写真は、令和6年10月26日（土）大船渡プラザホテルにて、ひだりから長女、長男、妻、次女、自分です。毎年恒例のハロウィンのイベントをやっていたので、みんなで遊びに行ってみました。



研修医日記



岩手県立大船渡病院 二年次研修医

矢 崎 啓

県立大船渡病院 2 年次研修医矢崎啓です。出身は隣県の宮城です。不思議な事に昨年この文章を書いた犬塚とは同い年です。現在 2 年次研修医 4 人、1 年次研修医 3 人の計 7 人で研修医生活を送っています。これを書き始めたのは 5 月の末日で、ドキドキしながら初出勤してから早くも 1 年が経過しました。2 年次の偉大な先輩がいなくなって寂しさを感じつつ、新たな後輩が 3 人も来てくれて自分が先輩にさせていただいたことを如何に還元するかを考えながら日々業務にあたっている事を考えると時間の早さに愕然としています。臨床の現場に立ち始めて、新たに覚えることの多さや国家試験を通過するために蓄えてきたつもりの知識を実際の現場で活用することの難しさなどを今でも実感しています。

話は変わりますが、私が大船渡病院を研修先に選んだのには何ととっても日当直での救急診療で積める経験の多さが理由です。研修医が身体所見や問診から予測をして検査を組み立てたりすることが多く経験できるのは救急外来が多いです。ただ、その中でも研修当初は、検査に踏み切ることを始め、もちろん診断をつけることの難しさ、バイタルの安定しない患者さんに何かしなければならぬと分かっているけど何をすれば良いか分からず立ち往生し、複数疾患を抱えている優先順位をつけながらどの科に入院管理をお願いするかを考えなければならないことなどやらなければならないことはいつも山積みです。その様な中でも電話を受けていただいた当該科の先生方には優しく引き受けていただくことも多々あり、日々感謝しかありません。研修が始まってから上級医の先生方や看護師、薬剤師の皆さんを始めとした多くの方にたくさん助けていただきました。日々の外来や救急業務をこなしていくなかでコミュニケーションをとり、患者さんやその家族への話の仕方なども含めて多くの点で地域の皆様に成長させていただいていることを実感しています。

ドキドキしながら始まった社会人生活から早くも 1 年半が過ぎ研修医生活も終わりに近づいています。来年からは研修医という立場ではなく、一人の専攻医として医療に携わっていかなければなりません。その段階への準備も進めていかなければならず生半可な知識で臨むわけにはいけないと思うと今のままで大丈夫なのかという不安があるのも事実です。しかし、不安だけではなく、今までに経験した事のない症例や手技などが数えきれないほどあり、これから先、更に経験を積めることを考えると楽しみがあるのも事実です。来年度は消化器内科を専攻していこうと考えています。まだまだ至らない点が数多くあり、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが今後とも御指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

編集後記

連日各地で40度を超える気温が報告され、まさに記録的な猛暑の中、ご寄稿いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

けせん医報第170号では巻頭言・随想・研修医日記に加え、特別寄稿として2月から3月にかけて発生した大船渡市大規模林野火災について、4名の先生方にご寄稿いただきました。先生方の当時の行動や避難所の状況を会員の皆様で情報共有することは、今後また災害が起こった際の参考になり、とても有意義であると思いました。火災があった地区についてはまだ復興の途中であり、引き続き医師会として協力していけたらと思います。

今年の夏はまだまだ暑い日が続きそうですので、会員の皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。私も遠藤先生のおっしゃる通り、今できることを精一杯行っていきたいと思います。

〈G.Y〉

表紙のことば

毎年8月の6日・7日は盛町灯ろう七夕祭りが開催されます。色とりどりの飾りつけを行い、山車を運行するなど地域の方々の絆をつなぐ昔からの気仙の夏の風物詩です。東日本大震災後は各地のボランティアの支援を受けて実施しており、今年も立命館大学の学生たちが準備段階から協力してくれています。このように今ではほかの地域との絆もつなぐ祭りとなっています。

(写真提供：村田プリントサービス)